

総務常任委員会記録

日時 令和8年5月22日（金）

場所 第三委員会室

午前10時00分 開 会

○伊藤欣哉委員長 ただいまから総務常任委員会を開会いたします。本日は全員出席であります。直ちに本日の会議を開きます。

1、政策提言について

○伊藤欣哉委員長 議論に入る前に前回の委員会について振り返りをさせていただきます。前回は政策提言テーマの候補として大きく二つの方向性に整理をいたしました。

一つ目は、市民の皆様がデジタルツールを使いこなし有効に活用できるスキルアップの体制作りや利便性の高いプラットフォームの構築について、というところでまとめておりました。二つ目は少子化の進行を踏まえ、今後の学区改編や学校統廃合、不登校対策など、これからの時代に即した公教育、あるいはそれ以外の教育の在り方についてというふうなことでまとめさせていただいております。今回この二つの方向性について改めて検討させていただいて、今回はテーマを一つに絞りたいというふうに思っております。ということ踏まえて、ちょっと議論をさせていただきたいと思います。

いかがでしょうか。前回、デジタルツール、これだけ人が減少している中で、デジタルを活用した業務体制を執行することが、これは避けて通れないというふうなことをありながらも、人件費等の高騰によりまして、今回の補正予算でもデジタル関連で予算をアップしなければならないというふうな状況にありますから、避けて通れないものをやる中で、費用をかけるわけですから、十二分に市民から活用していただくということは、予算の有効性、効率性を上げるために、ぜひとも必要なものであるというふうに思っております。

一方、学区改編、これも本当に待ったなしの状態には来ているというふうなことで今、川南の方でスタートさせていただきますとしておりますが、早晚、全域でこの問題が出る。これも大きな重要な課題だというふうに理解しております、二つやるべきところではあるのかもしれませんが、一つでお願いをしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

○伊藤欣哉委員長 AかBかというふうな議論でよろしいですね。

多数決というわけにいかないのかな。皆さんから意見をもらうために1人1人、ご意見頂戴したいと思います。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 私はですね、やっぱり学区改編もすごく大切だと私も思っていて、ただこれ落とし所が結構難しいですし、まず、もっと我々状況を知らなきゃいけないのかな。学区ごとの人口減少の状況を知った上で、やっぱこれ取り組んでいく必要はあるのかな。まだ本当落としどころが難しい問題でありますので、今回取り組みやすいというのであれば、DX推進の方が様々な防災の面だったり、このスクール・コミュニティやコミュニティ・スクールの

ところも入ってくるでしょうし、不登校の方にもD Xの活用ができますので、私はD X推進の方がよろしいのではないかなというふうに思いました。以上です。

○伊藤欣哉委員長 他にございませんか。

杉山道弘委員。

○杉山道弘委員 私も似たようなところもありますが、教育関係も非常に興味があって大事なところではありますが、D Xの方はですね、世代が広く扱われるといいますか、どの世代でも、もう待たないといえますか、これから広く使われていくであろう分野であるかと思います。まず先にD Xの方に取り組まれた方がいいのではないかと思います。以上です。

○伊藤欣哉委員長 他にございませんか。

遠田敏子委員。

○遠田敏子委員 私もD Xを推進していきたいと思うんですが、その理由としてはやっぱり高齢者の皆さんがこのD X、デジタルをうまく活用できる支援をしっかりと構築していくことが必要でないかなって一点思います。東北公益文科大学の学生さんのサークルで、このスマートフォンをこうやって使うんですよっていうサークルがありましたので、そういった皆さんからも協力をいただきながら、あの高齢者の皆様誰一人本当に取り残さない優しいD Xを進めていかなければならないんじゃないかなってこんなふうに思います。高齢者だけでなく、やっぱりあの行政の情報の一元化だったり、あと防災、福祉、子育て全てにおいてデジタル連携をしっかりと構築して、観光、交通分野それこそ全てにおいてD Xを進めていった方がいいのではないかなって思います。以上です。

○伊藤欣哉委員長 佐藤千佳夫委員。

○佐藤千佳夫委員 自分もD X推進を最初にしてもいいのかな。本年度本当に市のものいろいろところで大きく変わろうとしているので、そういった意味でD X関係も一緒に絡めたものでより良いものをしていく必要があると、より良い政策をしていく必要があるのかなと。また、教育については、ちょっとあまりにも地域の願いや、あるいはその地域の実情そういうものもまだちょっと勉強不足な感が自分であって、すぐイメージがつかないっていうところもあるので、それは勉強しながら今後やっていくっていうのでどうでしょうか。以上です。

○伊藤欣哉委員長 他にございますか。

田中廣委員。

○田中廣委員 皆さん、D Xと今きたわけですけども、私はこの教育問題について、学区改編を含めた部分をもうちょっと教育委員会の話を聞きながら、聞きたいことはやっぱり山ほどあるんです、実は。それを今やらないと。D Xはある程度進んできました。確かにお金はかかるけれどもっていう部分も、どうやって広めていこうかという部分も、確かに問題提起はできるかもしれませんが、それよりも今、学区改編を進めながら、スクール・コミュニティをどうやっていくのかっていう部分が今全然見えてない状態。その中でやはりこの委員会として提言をしていくという形の方を私は考えたいなというふうにして思っております。以上です。

○伊藤欣哉委員長 他にご意見ございませんか。

佐藤伸二委員。

○佐藤伸二委員 ご指名をいただきましたので、一言だけ。私もD Xはこれからの時代を生きていく上で非常に避けて通れない部分で、非常に大事なものというふうに思っておりますし、

確実に本市としても取組を行わなければならない分野というふうに認識をしているつもりでございます。ただ、今さっき出ましたけれども、この教育の部分に関しては、これからの酒田を支える人材を養成すると言いましょか。そういう部分で非常に私は一番教育が一番優先するのかなというふうに思っております。それと子ども達に関する教育環境の整備、教育の質の内容等、これから少子化を迎え、もう激動の少子化でありますんで、そういう時代に生きていく子ども達を、いかに本市のこれからを担う人材として育て上げていくか、その部分が私は非常に重きを置いて考えているものでございますので、私としては教育、少子化の問題の方を優先したいという気持ちがあります。

ただ、皆さんDXというのはあれば私もそれはそっちに妥協はできるんですけども。そんなことで、私の意見としてはそうです。以上です。

○伊藤欣哉委員長 富樫覚委員。

○富樫覚委員 デジタルから少子化の方に、学区改編に流れが少しきてるような状況でございますけれども、私は緊急度合いから考えていった方がいいのかなって思っていました。そうすると先ほど委員長は川南地区のお話をしておりましたけれども、実はこの中心市街地の琢成小学校も今年の入学生は10人しかいなかったということなわけです。そうすると、もう2年後入ってくるのは5人しかいないらしいっていう、そういうことらしいんですね。そうなったときに保護者の人の話を聞くと、やっぱりたくさんある程度いるところで学ばせたい。そうすると他にも古い琢成小学校にこだわる必要はないというふうな人もいますけど。つまり学区改編して早くしていくほうが子ども達のための教育はいいっていうそういうふうなことなんですね。それを考えたときに、ものすごく近々の課題であって、おそらくある程度教育委員会の方ではそういうことも考えてるんだろうと思いますけれども、具体的にはまだまだ私どもの方には何も話はないわけでありまして。デジタルも本当に重要なことは重要なんですけど、緊急からすると、その次世代教育という部分というよりは学区改編っていうか、そっちの方がすごく、というふうな気がしているところでございます。以上です。

○伊藤欣哉委員長 一つに絞りたい。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 今年度予算で学区改編推進事業ということで、今回その学区改編会の開催ということで、まだ多分教育委員会も調べきれてない状況で我々もどういうふうにやっていくか、正直言って本当難しいと思うんです。なので私は学区改編は正直言って、勉強会で。落とし込みが難しいので、DXは提言にして、勉強会とか、そういったものに教育委員会呼んで、それは一緒にやっていこう。提言はしないと。ただ勉強会として教育委員会を呼んでいただいて、そこで意見言ったりとかするのがいいのかなというふうに正直思います。

今、学区改編のビジョン、講話会の開催なんでまだビジョン、計画、どこまで行くかわかんないんですけど今年度予算ついてますので、ただ本当教育委員会呼び出されてもまだわかりませんっていうふうな状況になりかねないので、その辺は私は二つやりたいんで、二つやっていたら難しいですけど。提言はDX、でも研究、探究では、学区改編とかそういう教育のところに行くっていうのはありなのかなというふうに思います。以上です。

○伊藤欣哉委員長 ご意見は二つ分かれているというところだというふうに思っておりますが、一定程度充実した調査と、ヒアリングを踏まえながら視察研修をしてというところを考えた場合、やはり二つというのはなかなかちょっと重荷だなというふうに思っております。気持

ちとしてはどちらもいずれも重要な課題でありますから、我々としても積極的にいいチャレンジをしてみたいと思いますけれども、今回は一つにぜひとも絞っていただきたいということをまずもってご理解いただきたいと思います。

皆さんのご意見を拝聴しながらですけれども、私なりにもお考えを申し上げますけれども、公教育のあり方について議論を、政策提言をしていくということについては、これは相当力相撲にならざるを得ないのかなというふうに思っております。また一方、学区改編の部分ですね。ここについては私の経験からしましても十分に地域の要望、実情はもうわかってるわけでございますけれども、要望というところのしっかりとした調査をしていかないと、これ一旦問題が発生した場合にはなかなか厳しい問題になるというところもでございます。我々の方では急いで、政策提言でございますから、この現状の中でしっかり、例えば誤解を恐れずに言えば、統廃合をどんどん進めてやらざるを得ないのだというふうなことを申し上げることは、非常に重要であり、簡単って言ったら悪いですけども、言えるわけでございますが、承る方の受け入れ体制としてはなかなか難しいところがあるのかなというふうに思っております。

一方でデジタルの方についてはですね、非常に政策提言としては作りやすい、実効性が高い、それからK P Iをしっかりと表すことができる可能性があるというところを踏まえるんですね、今この二つ、二者選択の議論の中で言いますと、私もデジタル戦略のしっかりとした定着を進めるという方向で進めてはいかがかなというふうには思っておりますが、なお皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 委員長のおっしゃるとおりで私もいいと思うんですけど、今私さっき喋ったことは、もうそういった教育委員会とか呼んでいただいて、そういうところを話したりとか勉強会とか、その懇話会に参加するとか、オブザーバーでっていうのは、もし可能であればしていただきたいなという。やっぱり大事ですし、知らないで決まったものができましたって、完成だけ持ってこられても、もうそれでも既定路線になってしまっていると思うので、やっぱりそこは途中経過、しっかり我々も監視しながら、意見しながらですね、作っていただければなというふうに思いますので、その辺はぜひDXになったとしてもですね、ぜひとも教育の方は取り組んでいただきたいなということを意見を申し上げて終わります。

○伊藤欣哉委員長 今いただいた件につきましては本委員会の勉強会というような形なるかもしれませんですけど、ぜひ申し入れをしていきたいというふうに思います。

田中廣委員。

○田中廣委員 おっしゃることは皆、わかるつもりではいるのですが、ただ、まだ教育委員会が固まっていない部分、その部分を聞いて勉強会でございますと言ってやるよりも、我々からどんどんどんどん進めて提言をまで持っていくと。公教育がどうのこうのというよりも、学区改編を含めた、どういうコミュニティを作っていくのか。その辺をやはり政策提言で決めていった方が私はいいいのではないかな。ただ、はっきり言って、勉強会必要だと思います。当然やる中では、勉強会含めていろいろと、この部分は政策提言できますね、できませんね、というあれも判断も出てくるでしょうし、そういう形でとにかく私はDXよりもこの学区改編も含めた部分の教育の関係の方が先ではないか。本当に喫緊の課題でないのかなと。今、少子化の部分で10名です、5名です、という話です。松山の方も1名、2名の話です。

それはもう数年後には出てくるんですよ。そうなってくると、今からでもこういう改編をした方がいいんじゃないか、というような提言まで持っていけたら一番いいかなと。

もう一つ自治会が二股にわかれてしまってるという部分もあります。それだって早めに手当てしないと、提言として出してやらないとその地域の人たちが、本当にコミュニティの部分が壊れそうな形も見えつつありますんで、その辺も私はこっちの方が先ではないのかなというふうにして思います。

○伊藤欣哉委員長 大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 民生常任委員会ではこれ、地域コミュニティの方をやるというふうな話も聞いてましたので、そこを同時並行するのは、一緒に勉強するのはいいんですけども、あくまでも総務常任委員会としては、教育の立場で考えなきゃいけないところで、コミュニティで考えるのと、また教育の学区改編というのはちょっと分けて考えなきゃいけない部分、合わせなきゃいけないんですけども、総務常任委員会としてコミュニティの方で進んでいくと、ちょっと変わってくるのかなというふうに思います。スクール・コミュニティ、コミュニティ・スクールも教育委員会が担当なのか、それとも民生常任委員会の方が担当なのかとはっきりさせないとちょっと難しいのかな。ここ両輪でいくとまだちょっとごちゃごちゃになってしまうのかなという。学区改編も少子高齢化だから学区改編するんじゃなくて、あくまでも教育のために学区改編、富樫覚委員がさっきおっしゃってましたけども、子ども達のために学区改編をして良い教育をさせるんだっていう思いもあるんで、その辺はちょっと目的は少し精査をするべきなのかなというふうに思いましたので、意見させていただきます。以上です。

○伊藤欣哉委員長 先ほど勉強会を申し入れをしながらいうところの中で、例えばですね、この勉強会の中で、この委員会の中で、これでは駄目だねと、もっと議論を深めるように、言い方悪いですけど発破かけなくちゃいけないというふうな段階にもしなったら、その段階で再度皆さんとお諮りをしながら政策提言で、持っていくという道筋も、視野を入れてもいいのかなと。今現状の中ではですね、こだわりますけども、まずは一つデジタルで進めて、複合的にそういった視点を引き続き議論しながら進めるというふうな方向性でどんなものでしょうか。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 今の話だとあくまでさっき政策提言っていう一つのプロセスの中ではDXをして、教育の方は勉強会しながら必要であれば、委員会としてしっかりと文書なり何なりちゃんと出して出すということも可能だということで認識でよろしいですか。

○伊藤欣哉委員長 暫時休憩いたします。

午前10時21分 休憩

午前10時28分 再開

○伊藤欣哉委員長 再開いたします。

先ほども申し上げましたが、委員会の中での対象としては、今回のテーマについてはデジタルスキルの市民の技術スキルアップを目指した活動というところを一つのテーマとしていきたいと。併せまして、今課題として取り上げておりました、少子化を踏まえた学区改編、学校統廃合、こういったものについては、同時並行的に勉強会を開きながらですね、皆さんから状況の情報を共有していただいて、来たるべき段階で政策提言というところを目指すと

いうふうなところで、本日はまとめたと思います、いかがでしょうか。

(異議なし)

○伊藤欣哉委員長 異議なしということで、そのようにさせていただきます。

これに基づいてヒアリング先の調整等について、事務局で考えてもらえますか。

暫時休憩します。

午前１０時３０分 休 憩

午前１０時３３分 再 開

○伊藤欣哉委員長 再開いたします。

当局側の戦略あるいは考え方、それからさっき遠田敏子委員からもありますけども、実際にそういったものをマスターしようとしている市民団体の受ける側の考え方、そういったところをヒアリングをしながら、提言の中に盛り込んでいく。そういったことが必要なのかなと思うんですけどもいかがですか。やるとすれば６月の議会中、当局については日程を取ってお伺いするのは、そう難しいことではないかなというふうに思います。

そういった関心あるいは高齢者の方々、ＤＸをもっと覚えたいなと思っているような方々との意見交換、あとは議会中はなかなか難しいかもしれませんが、日を選んでやってみるとか。

○田中廣委員 今、委員長が言った覚えたい人に教えるのか、市民に広く、まずみんなが使えるっていうか、見られるという形にしていけないと、そのところをやっぱり重点的にやっていけないと、どうかなと。知りたい人だけではやっぱり駄目だろうなと。先に進まないんじゃないのかなというふうにして思います。

○伊藤欣哉委員長 他にご意見ございませんか。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 ソサエティ５．０ということで、情報技術社会でのソサエティ４．０からソサエティ５．０っていうところで、デジタル社会を目指してる中で、田中委員おっしゃるとおり、一部の人が利益を得るのではなくて社会全体がですね、ＤＸで支えられる社会になるためにどうしていかなきゃいけないのかっていうところで一つの手段として、高齢者のっていうところ出てくるだけなので、まず一旦は酒田市の方のデジタル戦略課の戦略自体も多分、庁内戦略なのか、それを市全体の戦略もあるのかっていうところをお聞きした方がいいのかなというふうに思います。そこからまた派生して、高齢者向けにアプリを開発している企業に聞いたりとかですね。そういったところも、面白いのかなというふうに思いますので、ぜひ今一旦は酒田市の方でどのように考えるか聞いた方がいいと思います。

○伊藤欣哉委員長 一旦当局の方の考え方を聞いて、さらにその幅広く市民が利活用していくために必要な方向性というのを一旦お伺いをした中で、次、先ほど言いましたけれども市民側のご意見というところの客体は再度また議論させていただくというふうな方向性で進めたいと思います。

ということでまず６月の議会中に一旦デジタル戦略課とのヒアリングを差し挟まさせていただきますのでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○伊藤欣哉委員長 以上、申し上げたテーマ並びに今後の日程ということで、お含みおきいただき、再度ご連絡を申し上げます。一応デジタル戦略課の方については現状の認識と課題と

先ほど言いました市民に利活用できるようなための取組をどう考えているか、というところを投げかけていきたいというふうに思います。

2. その他

○伊藤欣哉委員長 その他について委員の皆様から何かございますでしょうか。

大壁洋平委員。

○大壁洋平委員 ぜひ先ほど言った教育の部分、学区改編のところもですね、併せて勉強会もですね、はっきり言って決めておかないとやらずに終わってしまうと思いますので、聞き取り等もしていただきたいなというふうに。コミュニティ・スクールのところの現状は間違いなく問題だと思ってますので、そこ

は一旦ちょっとそこも聞き取りだけさせていただければというふうに思います。よろしいですか。

○伊藤欣哉委員長 今いただきました教育委員会の方から、学校統廃合等を含めた形の他の考え方についてのヒアリングも併せて進めさせていただきたいと思います。

他にございますか。

(なし)

○伊藤欣哉委員長 事務局の方から何かございますか。

(なし)

○伊藤欣哉委員長 ないようですので以上をもちまして総務常任委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。

午前10時39分 閉会